

歯科衛生士・歯科技工士向け特別研修会

インプラント治療における歯科衛生士の役割

講師：松岡恵理子氏（日本歯科大学新潟病院口腔インプラントセンター歯科衛生士）

日時：平成21年8月30日(日)

場所：東京ステーションコンファレンス



八木原淳史（茨城県）

特別研修委員会より、平成21年度歯科衛生士・歯科技工士向け特別研修会の模様について報告をいたします。

8月30日、東京ステーションコンファレンスにて、日本歯科大学新潟病院口腔インプラントセンター歯科衛生士、松岡恵理子先生にお越しいただきました。夏休み最後の日曜にもかかわらず、80名を超える出席者が集い、しかもその多くが歯科衛生士の方々です。

テーマは「インプラント治療における歯科衛生士の役割」。長年の歴史から始まり、その利点および留意点、インプラント補綴の構造、治療計画、術前診査、インフォームドコンセント、器具の準備、清潔域不潔域の管理、術中における歯科衛生士の役割、術後の管理と、すべての内容を網羅し、聴衆は真剣にメモをとっていました。

さらに、インプラントの炎症メカニズム、その対処法、トラブルシューティングといった、高度な内容もわかりやすく説明いただき、歯科衛生士、歯科技工士の皆さんだけでなく、我々歯科医師にとっても大いに学ぶべきものがありました。

とりわけ、術後の食事(食餌)管理では、栄養面の



考慮、副食の選択法など、歯科衛生士の立場から患者さんの気持ちをくみ取る姿勢を強くアピールいただきました。この点は、我々歯科医師が忘れがちな一面であり、術後のケアとして、再考の余地ありと感じます。

さらに今回、松岡先生は、メーカーを通じて多くのサンプル商品を準備していただきました。多くのデンタルショーでも見られる光景ですが、歯科衛生士の皆さんは、このサービスに大変喜んでいました。

私たちの研修会は、インプラント治療の最先端を追いがちですが、これにばかり目をとられていると、知らず知らずのうちに、患者不在のスキルに陥りかねません。時には幅広い観点から、患者さんをメンタル面から配慮した研修を、忘れるべきではないでしょう。そこで、デンタルスタッフを含めた総合的な研修、さらに歯科衛生士、歯科技工士の観点からみた患者さんへの思いやりは、是非とも定期的に学ぶべき事項と痛感いたしました。

「患者さんの幸せのため」を忘れずに、明日からの臨床を真摯に取り組みたいと思います。

松岡先生、ありがとうございました。